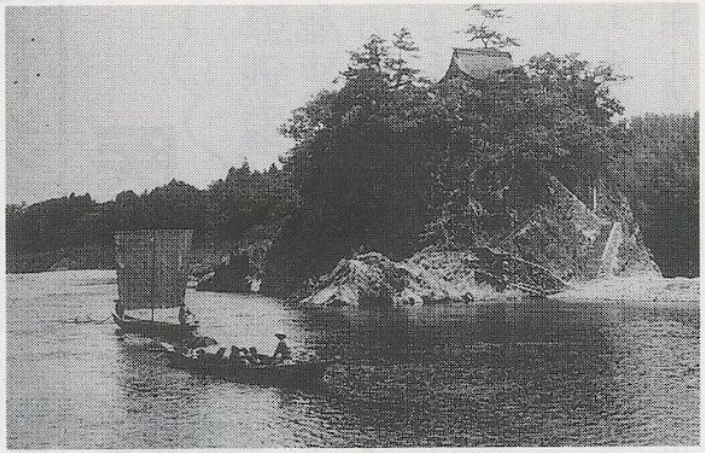
# ふるさと資料紹介②

陸上交通網の発展した今、いつしか忘れ去られようとしていますが、かつて、木曽川流域の人々の生活は、流れを上り下りする舟運に支えられていました。とくに明治から昭和の初めにかけては大変なにぎわいでした。

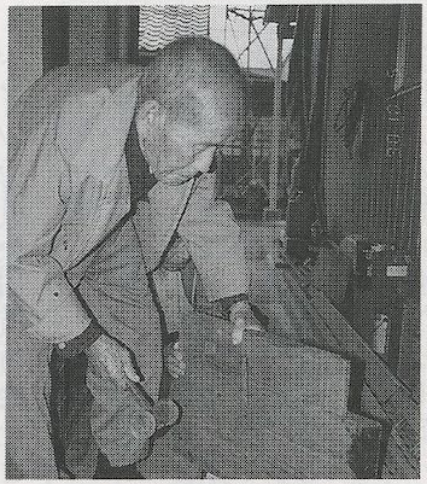
下米田町小山に住む渡辺米市さん(89才)は、舟大工として物資を運ぶヘダカ舟を建造していました。舟の長さは約十メートル、胴部は四枚の板をつなぎ合わせた四枚腹というものです。クサマキの赤身を材料として使い、一そう仕上げるのに約一カ月かかったということです。



古井遊船のライン下りと川をのぼる帆かけ舟
(昭和10年頃、岩井茂さん提供)

出来上がった舟は、下麻生と笠松などの間で、おもに薪や木炭を運ぶのに使われましたが、高山線の開通などによって物資輸送としての舟運は徐々に衰退していきました。一方で、大正の末に開業された「古井遊船」(青柳橋からのライン下り)など、観光を目的として舟は利用されていました。

このたび、渡辺さんからノミ類、カンナなど舟の建造に使った工具の一式をいただきました。



工具の使い方を説明する渡辺さん

その他、次のみなさんから貴重な資料を市教育委員会に寄贈いただき、ありがとうございました。(平成二年十月分)

○**農耕用鞍、織機一式**ほか五点
(桑原庄助さん/本郷町)

○**トアウチ**ほか一点
(土屋幸也さん/下米田町)

○**商看板**　二点
(日比野享一さん/島町)

市社会教育課(内線三六一)まで情報をお寄せください。